5.5.1.7.　オゾン発生器を停止した状態で、酸素及び合成空気の流れを遮断する。この場合において、分析計のNO_2の値は、5.5.1.2.で得られた値の５％を超えて当該値を上回らないこと。

5.5.1.8.　NOxコンバータ効率は、5.5.1.3.から5.5.1.7.まで測定した濃度a、b、c及びdを用いて、次式により算定し、95％以上であること。

効率（％）$= \left(1 + \frac{a-b}{c-d}\right) \times 100 \geqq 0.95$

5.6.　秤量天秤の校正

5.6.1.　捕集フィルタの測定に使用する秤量天秤の校正は、国内規格又は国際規格へのトレーサビリティを有すること。

5.6.2.　天秤は、4.2.2.2.に規定する線形性の要件に適合するものであり、少なくとも12カ月ごと、又は校正に影響を及ぼす可能性がある装置の修理若しくは変更が行われたときに、線形性の検定を行うこと。

5.7.　混合装置の精度

5.2.に規定する校正を実行するためにガス分割器を使用する場合、混合装置は、希釈された校正ガスの濃度を±２％の範囲で確定する精度を有するものであること。この場合において、5.3.に掲げる中間スパン検査によって校正曲線を検定し、濃度が分析計レンジの50％未満である校正ガスについては、そのガスの認証濃度の２％以内であること。

6.　基準ガス

6.1.　純粋ガス

6.1.1.　ppm単位のすべての値は、volppm（vpm）とする。

6.1.2.　校正及び稼働に使用する稼働ガスは次に定める要件に適合すること。

6.1.2.1.　窒素：（純度：≦１ppmCHC、≦１ppmCO、≦400ppmCO_2、≦0.1ppmNO、＜0.1ppmNO_2、＜0.1ppmN_2O、＜0.1ppmNH_3）

6.1.2.2.　合成空気：（純度：≦１ppmCHC、≦１ppmCO、≦400ppmCO_2、≦0.1ppmNO）；酸素含有量18～21vol％

6.1.2.3.　酸素：（純度：＞99.5vol％O_2）

6.1.2.4.　水素（ヘリウム及び窒素を含む。）：（純度：≦１ppmCHC、≦400ppmCO_2）

6.1.2.5.　一酸化炭素：（最低純度99.5％）

6.1.2.6.　プロパン：（最低純度99.5％）

6.2.　校正ガス

6.2.1.　校正ガスの濃度は、規定された値の±１％以内又は次に掲げるとおりとする。

6.1.2.1.又は6.1.2.2.の仕様によるバルクガスを使用し、以下の組成を有するガスの混合気体を用意しておく。

(a)　C_3H_8空気バランス

(b)　CON_2バランス

(c)　CO_2N_2バランス

(d)　CH_4空気バランス

(e)　NON_2バランス（この校正ガスに含まれるNO_2の量はNO含有量の５％以内であること）

(f)　C_6H_{14}、N_2バランス

別紙６　WLTC試験手順及び試験条件

1.　試験手順及び試験条件

1.1.　試験の説明

1.1.1.　本試験により、CO等及びPMを検証する。

1.1.1.1.　1.2.に規定する方法に基づき、試験を行いCO等及びPMを分析すること。

（参考図）試験回数のフローチャート

